

2017 年度(平成 29 年)事業報告

自 : 2017 年1月1日 ~ 至 : 2017 年12 月 31 日

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

I. 基本方針

スペシャルオリンピックス日本(SON)のビジョン体系に基づき、2017年度は以下の方針で事業を実施した。

【2019年に向けたSONのミッション、ビジョン、ゴール】

<ミッション>

知的障害のある人たちに年間を通じて、オリンピック競技種目に準じた様々なスポーツトレーニングと競技の場を提供し、参加したアスリートが健康を増進し、勇気を奮い、喜びを感じ、家族や他のアスリートそして地域の人々と、才能や技能そして友情を分かち合う機会を継続的に提供すること。

<ビジョン>

スペシャルオリンピックスは、我が国における障害者スポーツ推進の一翼を担うために他の団体とも密に連携し、また、各地区組織に根付いた全国的な運動となることを目指す。

<ゴール>

- 組織基盤の構築：ビジョン体系の共有、SON全体の組織としての能力強化、SO活動を地区に根付かせる
- リソース獲得のための対外アプローチ強化：認知・理解度の向上、資金調達、ボランティア基盤の強化
- 活動の質的向上と量的拡大：スポーツプログラムの充実、アスリート数の増加

II. 大会の開催・奨励

1. 2018年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知 開催準備

2018年9月の開催に向け、運営主体として実行委員会を設立し、競技団体、競技会場の折衝に加え、開催記者発表など広報活動も行い、準備活動を行なった。

<実行委員会実施事業>

- 1月19日(木) 第1回実行委員会全体会議（基本計画案、委員・役員の委嘱など）
- 1月19日(木) 大会開催記者発表（会場：アイリス愛知）
- 11月13日(月) 第2回実行委員会全体会議（実施計画案、収支予算案、委員・役員の委嘱など）

<その他実施事項>

- ・大会ホームページの開設
- ・テレビ、新聞等への広報活動（紙媒体でのクリッピング件数 26件）
- ・大会スポンサー獲得に向けた渉外活動（資金調達）
- ・スペシャルオリンピックス日本地区組織へ大会要項、競技要項、大会クォータ（選手団枠）の配信

2. 2020年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム並びに2022年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム 開催準備

<開催希望アンケートの配信>

1月26日(木)、スペシャルオリンピックス日本地区組織へ「2020年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」並びに「2022年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム」開催希望アンケートを配信し、各地区組織の意向を把握した。

<開催希望地区の招致プレゼンテーション実施>

12月7日(木)、スペシャルオリンピックス日本事務局にて、「2020年スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム」開催希望のあった、スペシャルオリンピックス日本・北海道が開催計画案を基に招致プレゼンテーションを実施した。

3. スペシャルオリンピックス日本 2017年第2回全国ユニファイドサッカー大会 開催

昨年に引き続き2回目の開催となるユニファイドスポーツのサッカーの全国大会を開催した。

ユニファイドスポーツ(Unified Sports®)は、知的障害のある人(アスリート)と知的障害のない人(パートナー)が同じチームで競技を行い、スポーツを通じてお互いの個性を理解し合い支え合う関係を築いていく取組である。前回大会と比較して、参加チーム数が増加しただけではなく、試合でもアスリートとパートナーとのコミュニケーションや連携プレーが随所にみられるようになり、ユニファイドスポーツの普及や可能性を実感できる大会となった。

- 1) 開催日程 : 2017年12月9日(土)～10日(日) 2日間
- 2) 開催地 : 堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター J-GREEN 堺
(大阪府堺市堺区築港八幡町145)
- 3) 実施種目 : ユニファイドスポーツ® 11人制サッカー/7人制サッカー
- 4) 参加者数 : 選手団 302名
内訳:アスリート128名/パートナー109名/コーチ65名
(20チーム:12地区組織+SO韓国)
ボランティア延べ384名(競技役員26名、ボランティア358名)

III. 国際大会派遣

2017年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア

選手団派遣に際し、アスリートの充実したパフォーマンスを実現するための支援と共に、知的障害のあるアスリートが海外での集団生活を過ごすための準備として、オリエンテーションや合宿を行った。長期間にわたる海外での競技参加と集団生活により、アスリートは社会参加への意識を高め、心身両面での自立につなげることができた。また、今後の国内における競技会開催や競技普及に活用できるよう、各競技におけるルールの解釈や競技会運営方法についての情報収集にも努めた。

1) 開催・派遣期間 : 2017年) 3月14日(火)~3月25日(土)

* 出発前日の3月13日(月)に選手団結団式を実施

ホストタウンプログラム:3月14日(火)~3月16日(木)

開会式 :3月18日(土) / 閉会式 : 3月25日(土)

2) 開催地 : オーストリア共和国(シュラートミング、ローアモース、ラムサウ、グラーツ)

3) 参加者 : 107国より

アスリート 2,700名、コーチ・役員 1,100名、ボランティア 3,000名

ゲスト 1,200名、メディア代表者 800名

日本選手団 : アスリート 54名、役員(団長:大和田誠 SON参与)・コーチ 22名

サポートチーム 5名

計 81名 派遣

4) 開催競技・競技結果 : 9競技を実施/日本選手団は7競技に参加

<競技結果>

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	DSQ/ME
アルペンスキー	2	7	4	2	5	2	2		2
スノーボード	4	4	1		1				
クロスカントリースキー	2	1	3	2			1		
スノーシューイング	5	2	2	5					4
ショートトラック スピードスケート	2	4	2						
フィギュアスケート	1		2	1					
フロアホッケー					1				
合計	16	18	14	10	7	2	3	0	6

※ 団体競技 / 団体種目はメダル又はリボン1つとして集計

※ DQS:失格、ME:マキシマムエフォートルール違反

5) その他イベント : ホストタウンプログラム、ヘルシー・アスリート®・プログラム、

国際法執行者トーチラン®、ユニファイドスポーツ®、ソーシャルインパクトサミット

<結団式の開催>

世界大会開催地オーストリアに出発する前日、3月13日(月)に日本選手団結団式・壮行会を実施した。

日本選手団81名が一堂に会し、団長、代表アスリート、コーチが決意表明し、オーストリアでの

健闘を誓った。会場にはSONドリームサポーターである北澤豪氏、森理世氏、安藤美姫氏、

小塚崇彦氏、そして株式会社ユニクロ、トヨタ自動車株式会社、日本コカ・コーラ株式会社を

はじめ支援企業代表者が応援に駆け付け、選手団へ激励を送った。

1) 開催日程 : 2017年3月13日(月) 17:00 ~ 18:30

2) 会場 : 羽田空港 第1旅客ターミナル 6F ギャラクシーホール

3) 来賓を含めた来場者 : 109名(メディア取材:全国紙含め11社出席)

IV. SOムーブメント促進

1. 地区連絡協議会、全国事務局長会議

地区組織への情報提供とSO関係者の全国的なネットワーク創りの場として、地区連絡協議会及び全国事務局長会議等を開催。講演や活動事例の発表等を通じ、地区組織のマネジメント意識を高めるとともに活動の推進に関する情報共有を図ることで、地区組織の事業推進の助長に努めた。

- 1) 開催日：4月8日(土)
- 2) 会場：パソナ東京キャリア本社 8階ホール(千代田区)
- 3) 参加者：128名(47地区組織)

<地区連絡協議会>

SON理事長及び外部講師の講演を通じ、SO活動の社会的な意義やリーダーシップを学ぶ機会を提供、地区組織の役員等を対象に、リーダーシップの促進を図った。

<全国事務局長会議>

SONの主要事業並びに地区組織の実践事例等の発表を行い、事業推進のための情報共有を図った。特に、地区の実践事例の発表においては、2016年度の地区組織自己評価基準を用いて表彰された地区組織が、各地区が取り組んだユニークな取り組みや先進事例の報告を行い、今後のより良い活動実践に向けての知見を共有した。

<ナショナルミーティング>

- 1) 開催日：8月5日(土)
 - 2) 会場：名古屋学院大学 翼館 4階 クラインホール(愛知県名古屋市)
 - 3) 参加者：263名(一般参加者54名・SO関係者209名)
- プログラムの一つとして、「全国アスリートストーリー発表会」を開催し、14人のアスリートがスピーチを行ったが、スポーツ以外での活躍の場の提供することで知的障害者の主体性やリーダーシップの促進を図った。

2. 地区組織の認定及び更新、地区組織強化支援事業

<地区組織の認定更新>

各地区組織から提出された2016年度事業・決算報告、2017年度事業計画・予算等の総会資料を精査し、また、世界共通で行われているアスリート活動調査等の提出をもって地区組織の認定更新を行い、認証状を授与した。

<地区組織強化支援>

SO活動を全国に根付かせ、また、SO及び全地区組織の基盤強化につながるため以下の事業を実施した。

- ・地区組織情報共有システム(登録制インターネット掲示板)を活用した情報交換
- ・選抜地区組織を対象としたウェブ会議によるNPO法人化に関する支援講座の実施

実施講座と受講者：7月9日(日)：ボランティア講座、
7月23日(日)：ファンドレイジング講座、ガバナンス講座、
8月20日(日)：NPO会計講座、
9月10日(日)：事業計画講座 受講者:合計37人

※講義の様子は録画し、情報共有システムで閲覧可能とした。

- ・会員管理システムについては、2地区の新規導入並びにシステムのメンテナンス等を実施
- これにより、ボランティアな人々により運営されている地区組織の管理面等の強化と共に効果的な知識・ノウハウの共有を図ることができ、組織の基盤強化につながった。

3. 地区組織自己評価基準の策定および運用

約 30 項目の地区組織自己評価基準の運用を図ると共に、各地区からの意見を吸い上げた。地区組織自らが自地区の評価を行うことで、組織的な成熟度や活動の進達度を客観的に把握することができ、組織運営に対する意識を高めることができた。

4. 地区委員会およびブロック連絡協議会の開催

＜地区委員会＞

6 ブロック代表者と SON の地区担当理事が出席する地区委員会を、ビデオ会議を用いて毎月定例で開催し、年間を通じて設定したテーマおよび時宜に即したトピック等を議題として意見交換や情報共有を行った。定期的なコミュニケーションの機会を通じ、SON と地区間のコンセンサスを図ると共に、ブロック代表者が理解を深めながらブロック内の地区組織への情報展開や共有に努めた。また、地区委員会が中心となり、地区組織自己評価基準の見直しを行った。

＜ブロック連絡協議会＞

ブロック内の地区組織の事務局及びスポーツプログラムに関する代表者が出席するブロック連絡協議会を、上半期、下半期の年 2 回開催し、SON が提示したテーマやブロック内の地区組織が共有する課題について意見交換を行った。これにより SON と地区組織、並びに地区組織間のコミュニケーションを円滑にすると共に、実践に基づく現場の知識・ノウハウの共有が図られ、全国ネットワークにおける情報共有と地区組織の現場における活動推進力が強化された。

- 1) 上半期ブロック会議 : 全ブロック(東京都内) : 4 月 9 日(日)
- 2) 下半期ブロック会議
北海道・東北ブロック(盛岡市) : 9 月 2 日(土)、関東ブロック(東京都内) : 11 月 25 日(土)、
東海・北信越ブロック(新潟市) : 12 月 2 日(土)、近畿ブロック(大阪市) : 11 月 4 日(土)、
中国・四国ブロック(岡山市) : 9 月 9 日(土)、九州・沖縄ブロック(長崎市) : 12 月 3 日(日)

V. 指導者養成及びボランティア育成

1. 指導者養成

ボランティアコーチの育成と既存トレーナーのレベル及びスキルアップを目的とし、各種研修事業を開催した

- 1) コーチクリニック : 121 回開催(43 地区) / 参加者 3,159 名
- 2) 認定コーチ研修会 : 7 回開催 / 参加者 327 名
- 3) コーチアカデミー : 競技 ボウリング、開催日 7 月 16 日(日)、
会場 : 大丸パークレーンズ(山梨県中央市)、受講者 : 16 名(4 地区)

2. ボランティア育成

NPO 法人スポーツボランティアネットワークの協力を得て、一般市民を対象にした研修会、並びに既存のスポーツボランティアリーダーを対象とした資格更新講習会を以下の通り開催し、スポーツボランティアの育成普及とスキルの向上を図った。

1) スポーツボランティア研修会

日程:6月24日(土)、会場:福岡市NPOボランティアセンターあすみん(福岡市)、受講者:26名

2) スポーツボランティア・リーダーライセンス更新講習会

日程:3月25日(土)、会場:神戸市青少年会館(神戸市)、受講者:5名(リーダー認定者対象)

3. スポーツプログラム委員会全国会議

各地区組織からスポーツプログラム委員会の代表者が出席し、スポーツプログラムに特化したSONのビジョンと2017年度事業計画についての説明、SONが提示した議題やブロック内の地区組織が共有する課題についての意見交換を行った。これによりSONと地区組織における目標の共有が促進されたと共に、競技会運営等に関する知識・ノウハウの共有を図った。

日程:4月9日(日)、会場:パナソニック東京キャリア本社 8階ホール(千代田区)、参加者:62名

VI. 知的障害者の支援・育成

知的障害のある人となない人が共にスポーツをするユニファイドスポーツの推進により、障害のない一般市民や学生等の参加を促進し、知的障害理解の啓発並びに推進を図った。また、知的障害のある本人やその保護者を対象に、生活の質を高めることや、社会参加を促進することを目的とした多様なプログラムを提供した。

<ユニファイドスポーツ®>

ユニス・ケネディー・シュライバー(※)・デーにおいてユニファイドスポーツのイベントを全国各地で開催し、知的障害のある人となない人が共にスポーツ・レクリエーションを楽しむことを通じ共生意識の醸成を図った。また、各地区組織におけるユニファイドスポーツ普及のため、コーチクリニックを実施(5回)すると共に、ブロック、地区組織における競技会やユニファイドスポーツイベントの開催を奨励することにより認知訴求を図り、知的障害者のスポーツ参加の促進と支援者育成を推進した。

※ユニス・ケネディー・シュライバー:スペシャルオリンピックスの創始者

<健康増進活動>

- ・ヘルシーコミュニティ事業の一環として、地域の保健所や大学と連携しながら、SOアスリートだけではなく、地域に住む知的障害のある人たちに対し、ヘルシー・アスリート®プログラム(HAP)や生活習慣改善プログラムを提供した。開催地:函館市、名寄市、新潟市 参加人数:延べ171名
- ・生活習慣改善プログラムでアスリートの日常の健康に対する意識の変化についての調査を行った。
- ・ナショナルゲーム・愛知でのHAP開催に向けて、愛知地区大会にて2部門(眼科、歯科検診)を実施し、開催地の医療専門家の育成を行った。

<ヤングアスリート及びファミリーサポートネットワーク>

2歳半から7歳まで、SO活動でスポーツに参加する前の知的障害のある子供たちを対象に、楽しみながら身体を動かすことで発達を促し、スポーツをする基礎を作ることを目的としたプログラムの普及に向け、各地区組織のファミリー委員と協働を図り推進に努めた。

- ・コーチクリニック(ヤングアスリートのコーチ養成):4回
- ・デモンストレーションの実施:5地区(鹿児島、山口、大阪、宮城、岡山)

<ユースアクティベーション、学校連携プログラム>

学校や大学と連携し、若い世代のSO活動への参加を促した。また、プロジェクト発表会(サミット)をナショナルミーティングで実施し、名寄市立大学の学生とアスリートリーダーよりヘルシーコミュニティー事業の取り組みについて発表を行った。

- ・ヘルシー・アスリート®・プログラム(HAP)による連携

医療を学んでいる学生をボランティアとして受け入れ、HAPを実施した。(新潟市、北海道名寄市)

- ・総合的な学習や人権教育等での授業の実施

- 1) 東京都立大田桜台高校 奉仕活動体験授業(高校2年生対象)

ボランティアの実践とSO活動に関する理解を深めるため、授業及び講演会を実施すると共に、アスリート応援用のミサンガづくり、ボッチャ体験会を複数回にわたり行った。

- 2) 伊賀市立大山田中学校(8名)、伊賀市立立霊峰中学校(18名)

人権総合学習の一環として、修学旅行の際に事務局を来訪。SO活動やユニファイドスポーツの説明、ボッチャ体験を通じて人権についての理解を深めた。

- 3) 杉並区立中瀬中学校(各回 中学1年生 約120名)

細川名誉会長による講演等を通じた体験学習に取り組み、知的障害者への理解を図った。

<知的障害者本人及び支援者育成のためのSO国際本部主催の研修会への参加>

- ・ユースアンドユニファイドスクール研修会への参加

日程:4月23日~27日、開催地:フィリピン・マニラ、参加者:事務局スタッフ2名

- ・ALPs(アスリートリーダーシッププログラム)研修会

アスリートリーダーの育成を図ることを目的に、講義やグループワークを通じて知的障害者本人のリーダーシップを高める研修会が開催され、アスリート1名を派遣した。参加したアスリートは、地区の事業においてリーダーシップを発揮しており、地区主催の各種行事で司会を務めたり、ボランティアとしても参加する等主体的に活動に参画している。

日程:2月20日~21日、開催地:シンガポール、参加者:アスリート1名、事務局スタッフ1名

Ⅶ. 広報・渉外・啓発活動

世界大会派遣事業や各種事業を通じた広報活動を展開し、また、これらの事業にSONドリームサポーターの参加・協力を得ること、また支援企業の協力を得て、広報・啓蒙イベント等を実施することによりスペシャルオリンピックスの広報価値向上に努めた。

1. 広報・啓発

TV、新聞等のマスメディアや WEB、SNS を用いて SO 認知の向上や SO 参加者とのコミュニケーションを図るための広報活動を行った。年間クリッピング数:556 件(地区関係記事含む)

1) 2017 年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア

クリッピング数:34 社 94 件

2) スペシャルオリンピックス日本主催事業

① 2018 年スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知の大会広報活動(記者発表)

・クリッピング数:21 社 26 件

・テレビ放送:NHK 名古屋含む 5 局

② 第 7 回エールラン in MEGA WEB

・クリッピング数:2 社 2 件(スポーツ報知、日刊スポーツ)

・テレビ放送:フジテレビ みんなのニュース

・企業広報:トヨタ自動車の PR サイト「What's WOW」に特集映像掲載

③ 第 2 回全国ユニファイドサッカー大会

・クリッピング数:2 社 2 件(日本経済新聞、福井新聞)

3) その他 トピックス

① スペシャルオリンピックス日本と一般社団法人日本ライオンズ パートナーシップ締結 記者発表

・クリッピング数:3 社 7 件(中日新聞、毎日新聞、中部経済新聞)

② アルバルク東京×スペシャルオリンピックス日本『Special Olympics Day』の開催

・クリッピング数:4 社 8 件(毎日新聞、日刊スポーツ等)

③ 第 7 回エールランや全国ユニファイドサッカー大会には、よしもと興業株式会社所属芸人、

スポーツ著名人が多数参加し広報を行った。

2. 資金調達(寄付・マーケティング)

・財政の安定的基盤を固められるよう企業、個人への資金調達活動を行った。

・ユニファイドスポーツをはじめとした SO の魅力やリソースを活かした企業連携による資金調達を行った。

1) 新規支援先:アシックスジャパン株式会社、ブラザー工業株式会社、株式会社イトーキ、 一般社団法人日本ライオンズ

2) イベント・競技会による資金調達活動(既存支援企業含む)

「第 7 回エールラン in MEGA WEB」

日 時:2017 年 9 月 30 日(土)、会場:MEGA WEB TOYOTA CITY SHOWCASE

参加ランナー:1,650 名、ボランティア:173 名、実行委員会:22 名

協賛企業:トヨタ自動車株式会社、ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社、株式会社ユニクロ、

AIG ジャパン・ホールディングス株式会社、ANITIME FITNESS、アシックスジャパン株式会社、株式会社ローソン、日本コカ・コーラ株式会社、ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社、インフィニオン テクノロジーズ ジャパン株式会社、日本ビジネスシステムズ株式会社、日本オーチス・エレベータ株式会社、笑顔道整骨院グループ

「第2回全国ユニファイドサッカー大会」

日 時:2017年12月9日(土)-10日(日)、会場:J-GREEN 堺

協賛企業:アディダス ジャパン(株)、(株)ユニクロ、Anytime Fitness Japan、日本コカ・コーラ(株)、三井住友海上火災保険(株)、ビザ・ワールドワイド・ジャパン(株)、日本航空(株)、大和電気商工(株)、(株)あしすと阪急阪神、ダイキン工業労働組合、富士ゼッロクス大阪(株)、(株)産経新聞社

3) 東京マラソンチャリティ事業(東京マラソン 2018 は 2018/2/25 開催)

チャリティランナーの支援先団体として前回よりも多くのランナーを獲得し、寄付先団体(15 団体)の中でも SON は上位であった。

また、今回から始まった「アクティブチャリティ」に参加し、伊豆大島で有森理事長と一緒に走るランニング合宿を行うなど独自のチャリティ活動を行った。

※アクティブチャリティ:希望する寄付先団体が事前に出走権を確保し、独自のプロモーションによって寄付の呼びかけを実施する取り組み

チャリティランナー数:390 名

寄付金総額:42,951,000 円

VIII. 調査・研究・情報収集

アスリートを対象とした調査研究として、アスリートの身体調査及び高齢アスリートやヤングアスリートの継続的な調査研究を中心に行うと共に、2019 年度に設立 25 周年を迎えるにあたり発行予定の研究報告書について検討を行った。

1) 各委員による調査研究

- ・高齢アスリート、ヤングアスリート、身体等の継続的調査
- ・SO 活動の心理・社会分野の継続的調査
- ・知的障害者を支える民間ネットワークとしての SO 組織に関する研究

2) 調査研究委員会会議の実施

日程 : 3月5日(日)、7月30日(日)、9月12日(火)

会場 : スペシャルオリンピックス日本会議室(東京都港区)

3) 研究発表

SO 組織、ユニファイドスポーツに関する実践事例の発表(東洋大学社会福祉開発研究センター紀要)

IX. 他団体との連携

- 1) 一般社団法人日本ライオンズとパートナーシップを締結、共同して SO 日本の更なる発展を図ることに合意。
6月16日(金)、日本外国特派員協会にてパートナーシップ締結の記者発表を実施。
- 2) スペシャルオリンピックス国際本部、アジア太平洋地域オフィスとの連絡調整、会議・研修・イベント参加
 - ① X-Games Aspen 2017 スペシャルオリンピックス ユニファイド・スノーボード・レース:
1月24日～28日 / アスリート1名、事務局スタッフ1名参加
 - ② 第6回 NBA ケアーズ・スペシャルオリンピックスユニファイドスポーツ®バスケットボールゲーム :
2月16日～21日 / アスリート1名、事務局スタッフ1名参加
 - ③ スペシャルオリンピックスアジア太平洋地域リーダーシップ会議 :
2月17日～19日 / 地区組織事務局スタッフ1名、SON 事務局スタッフ1名参加
- 3) クーバーコーチングジャパンと共催事業開催
福岡開催 11月19日(日) : ユニファイドアカデミー 17名、指導者講習会 17名
大阪開催 12月10日(日) : ユニファイドアカデミー 17名
- 4) 障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟 スペシャルオリンピックス支援ワーキングチームとの連携
2017年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア 結団式への来賓出席依頼:3月13日(月)
2017年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア 報告会:5月22日(月)
スペシャルオリンピックス日本 2017年第2回全国ユニファイドサッカー大会への来賓出席依頼:
12月9日(土)～10日(日)
- 5) 他の競技団体、障害者スポーツ団体等との連携及び連絡調整
日本障がい者スポーツ協会、全日本知的障がい者スポーツ協会、日本知的障害者サッカー連盟など

X. 助成

- 1) 地区競技会推進支援制度の実施 : 3ブロック / 3競技会 60万円助成
- 2) SO ムーブメント推進事業への特別助成 : SON・福岡 100万円
SON・新潟 400万円

XI. 会議開催等

<評議員会>

定時評議員会 日時 : 3月10日(金)10:00～11:10 場所 : 富士ゼロックス東京会議室

<理事会>

第1回理事会 日時 : 2月22日(水)18:30～20:45 場所 : 3東洋海事ビル 会議室
臨時理事会 日時 : 3月10日(金)11:45～12:00 場所 : 富士ゼロックス東京会議室
第2回理事会 日時 : 6月21日(水)18:30～19:44 場所 : 3東洋海事ビル 会議室
第3回理事会 日時 : 9月28日(木)18:30～20:35 場所 : 3東洋海事ビル 会議室
臨時理事会 日時 : 11月9日(木)18:30～20:00 場所 : 3東洋海事ビル 会議室
第4回理事会 日時 : 12月21日(木)18:30～20:30 場所 : 5東洋海事ビル 会議室

<運営諮問会議>

月1回開催 原則毎月第3木曜日 13:30～15:30 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

<専門委員会>

【地区委員会】

月1回ビデオ会議システムを使用しての会議を開催した。

1月14日(土)、2月4日(土)、3月11日(土)、4月15日(土)、5月27日(土)、6月17日(土)、
7月15日(土)、8月19日(土)、9月16日(土)、10月7日(土)、11月11日(土)、12月2日(土)

【スポーツプログラム委員会】

スポーツプログラム委員会正副委員長会議

日時：2月26日(日) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

日時：7月2日(金) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

日時：10月5日(土) 臨時会議、メールでの審議

【ヘルシー・アスリート®・プログラム委員会】

ヘルシー・アスリート®・プログラム委員会会議

日時：8月13日(日) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

【調査研究委員会】

調査研究委員会会議

日時：3月5日(日) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

日時：7月30日(日) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所

日時：9月12日(火) 場所：スペシャルオリンピックス日本事務所